

# あけの

伊勢市立明野小学校

伊勢市小俣町明野 1939

校長 伊豆 敏

電話 24-5171

FAX 24-5172

E-mail akeno@el.ise-mie.ed.jp

学校教育目標 「心身ともに健康で、個性豊かな実践力のある子どもを育てる」

～ 困いさつ ぞうじ けんきょう 「あそべ」をがんばろう ～ いじめをなくそう ～

暖冬といわれた今年も時折厳しい寒さを感じるようになりました。例年に比べるとインフルエンザに罹患する子どもの数は少なく、明野小学校では学級閉鎖や学年閉鎖をすることはありませんでした。一方で新型コロナウイルスについてのニュースが連日のように報道され、学校行事への影響も出始めています。新型コロナウイルスやインフルエンザ、胃腸炎などの感染予防、感染拡大防止のために、咳エチケットや手洗い等の取組をお願いします。また、免疫力を高めるために、十分な睡眠、適度な運動、バランスの取れた食事を心がけ、もし、お子様に発熱等の風邪の症状が見られる場合は、無理せずに自宅で休養させてください。

## ◇卒業に向けて◇

令和元年度も終わりに近づき、本校では卒業式の準備を進めています。この一年、子どもたちは互いに協力をして、色々な行事を乗り越え、大きく成長してきました。授業や学級での活動だけでなく、遠足や運動会、文化祭、児童会活動、学年発表、集会等、様々な行事を通して、互いに新しい考え方を学んだり、協力して色々な課題を解決していったり、けんかをしたり仲直りをしたりして人間関係の作り方等も学んできました。それぞれの行事に向けて頑張っている子どもたちの姿を見ていると、大きな成長を感じます。そういった意味から小学校においては集団生活の中でたくさんの体験を積むことはとても大切です。行事を通して時々「自分はまわりの人に喜びをあたえているのだろうか」「自分は人の役に立っているのだろうか」と振り返ってみる事が大切です。まわりの人に心を寄せ、まわりの人から必要とされる事で、自分自身もさらに輝く事ができるのではないのでしょうか。特に6年生には4月から始まる新しい生活に向けて、卒業式までの期間をより一層、輝いたものにしてほしいと願っています。

さて、令和元年度ものこり少なくなってきました。この時期になると教職員にとっては、あっという間の一年間であったと感じながらも、年度末に向けて忙しい毎日を送ります。今後予定されている「卒業式」に向けて、子どもたちの思い出に残るようにしっかりと取り組んでまいりたいと思います。

## ◇土曜授業「6年生を送る会」◇ 2月15日(土)

2月15日(土)に行われた「6年生を送る会」は5年生の子どもたちが中心となって準備を進めてくれました。6年生を送る会の最初で1年生の学年発表がありました。1年生の学年発表はことばと歌とボディーパーカッションで「We will rock you.」と「空より高く」を披露してくれました。最初の曲のボディーパーカッションは1年生らしい元気の良いかわいらしい発表でした。その次は5年生の子どもたちが中心となって準備を進めてくれた、じゃんけん大会と三択クイズです。じゃんけん大会は、6年生が1年生から順にじゃんけんをして勝ったら2年生、3年生と勝ち上がっていくものです。

そして「6年生を送る会」の後半は、6年生の6年間をスライドショーで振り返る「思い出のアルバム」です。このスライドショーは伊勢市が行っている成人式のように、見ている子どもたちも大いに盛り上がっていましたが、先生の中には低学年の頃を思い出して、そっと涙ぐんでいる先生もいました。最後にお礼の意味も込めて6年生の学年発表でした。内容は「やまびごっこ」「こぎつね」「パフ」「いろんな木の実」「クラッピングファンタジー」と「3月9日」の合唱でした。スライドショーや6年生の発表は6年間の成長を感じることでできる素晴らしい内容でした。最後は花道をつくって6年生を送りました。あと実質15日間…小学校生活を楽しんでください。



1年発表



6年発表



6年退場

## ◇「保護者アンケート」にご協力ありがとうございました◇

11月13日(水)～11月20日(水)に実施しました「保護者アンケート」へのご協力、ありがとうございました。「保護者アンケート」や、6月24日(月)～7月3日(水)に実施した「第1回学校生活アンケート(児童用)」、11月12日(火)～11月19日(火)に実施した「第2回学校生活アンケート(児童用)」等の集計結果はホームページの学校だより「あけの」のページに掲載しました。また、保護者アンケートと同じ項目で教職員にもアンケートをとったものも掲載していますので是非ご覧ください。まだまだ不十分などころがありますが、頂きましたご意見や改善点については、職員会議で確認したところです。引きつづき改善活動に取り組むとともに、今回は保護者アンケートの中から「教師の指導について」を取り上げさせていただきました。

### ◎保護者アンケートから 一教師の指導について

たくさんの子どもが生活する学校では毎日様々な出来事が起き、その都度、教師が対応し、場合によっては保護者にご連絡して協力を仰ぐこともあります。子どもの成長をサポートし、子どもが困っていることについて保護者とともに考え解決していくことは学校、教師の責務であると考えています。

11月にいただいた保護者アンケートの中には、教師の指導について「親身にかかわってくれる」「すぐに対応してくれた」「寄り添っていただいている」「細やかな指導をしてくれる」「丁寧に連絡をしてくれる」といった感想が多く寄せられていて、とてもうれしく感じました。一方で、「子どもの見本にならない言葉づかいをする」「子どもの言い分もろくに聞かない」「気分次第で怒鳴りつける」「子どもを否定するようなことを言う」「威圧的な指導をする」「精神的苦痛を受けた」「いじめがあっても熱心になっていない気がする」等の意見もいただいています。また、保護者アンケート以外にも電話で子どもへの指導についてご指摘をいただいたり、来校いただいたりすることもありました。

教師に求められる力には、子どもに学力をつける教科等の指導技術はもとより、子どもを理解する力が必要です。旧態依然の型にはめる指導ではなく、一人ひとりの子どもの心に寄り添った指導が出来なければいけません。子どもが670人いれば670通りの人格があり、670通りの特別扱いが出来なければいけません。子どもへの指導は子どもの心を感じることが出来る共感する力と、実態に即して指導方法を変えていく柔軟性が求められます。

学校の主役は子どもであって教師ではありません。行き過ぎた指導により、子どもや保護者が学校に対して不信感を抱いたり、我慢をするようなことがあってはいけません。今までいただいた保護者からの手紙の中に次の一節がありました。「先生から子どもへ指導することは、教育としてとても大切であると思っていますが、その方法については他にあったのではないかと考えます。」…教師にとって本意でなくとも、子どもが納得していないのであれば指導の仕方については絶えず振り返り、改善する必要があります。指導が教師の思い上がりであったり、一方的であったりしないよう、私たち教師は常に「指導はこれでよかったのか?」「子どもを中心に考えていたのか?」と自分自身に問いかける必要があると考えています。それは自分の中にある「当たり前」の価値観を何度も疑うことです。

学校や教室における教師の言動は、教育上大きな意味をもっています。教師と子どもの関係は、対等でプライベートな友達関係とは違い、大人・教師と子どもという関係があるため、子どもの成長にとって大きな影響を及ぼします。教師の言動には、褒めたり、叱ったり、評価に関わる内容が含まれていることが多いため、子どもから見たときには、教師の主観とは異なって受け止められる場合があるということを認識する必要があります。例えば、教師が子どもに何気なく発する言葉の一つに「なぜ、できないの」という言葉があります。教師はできない原因を尋ねたつもりでいても、受け止める子どもは、できないことを詰問されているように感じる場合が往々にあるものです。教師の熱意や指導、良かれと思って行ったことが、時として子どもを傷つけることがあるかも知れません。そのため、教師には高い人権感覚が求められ、日頃、何気なく使っている言葉や立ち振る舞いにも細心の注意を払う必要があります。

「子どものために。」がきれいごとにならないよう、今回の保護者からのご指摘については真摯に受け止めるとともに、保護者からのご指摘で初めて気が付かされることも多いため、いただくご指摘は学校側の指導方法の改善にもつながります。今後、お気づきの点がございましたら、その都度、学校にご連絡いただきますようお願いいたします。

## ◇令和2年度の行事予定をホームページに掲載しました◇

令和2年度の年間行事予定をホームページの「予定」のページの4～3月の各月の明野小学校 行事予定に掲載しました。現時点での主な行事を掲載しましたが変更する場合があります。それぞれ前月の職員会議で決定しますので、その都度ご確認ください。なお、これまで6月や2月にあった半日の土曜授業については、来年度は行わない予定です。半日の土曜授業で行っていた学年発表については、日程が決まり次第お知らせいたします。